

ちよつとした工夫で減量化

生ごみ

減量化作戦

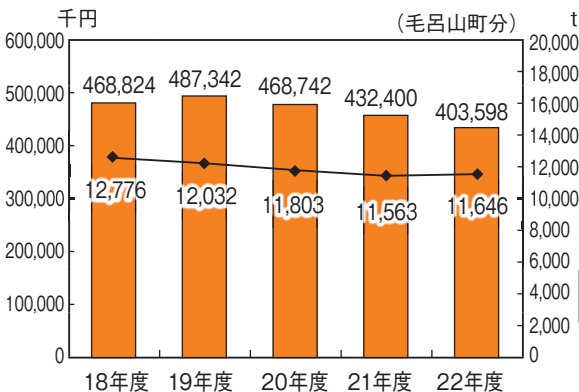
毛呂山町から排出されるごみの量は、年間1万1646トンで、一人あたり約320キログラムを排出しています。これらのごみのうち約80パーセントが可燃物です。そして、可燃物の約半分が生ごみとして排出されています。生ごみの約90パーセントは水分なので、皆さんもちよつとした工夫で生ごみを減らして、ごみの減量化に挑戦してみませんか。

ごみ処理費用は年間で一人あたり約1万1000円

平成22年度の埼玉西部環境保全組合決算では、約4億円が毛呂山町の負担金として支出されています。町民一人あたりでは、約1万1000円かかっているという計算になります。生ごみの減量化に取り組むことで、ごみの排出量を減らすことができれば、税金である町の負担金も減らすことができます。

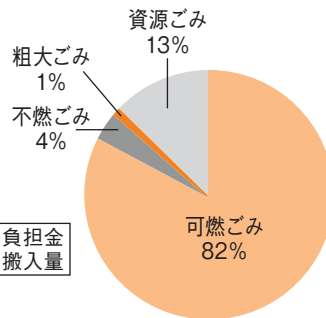
また、水分が多い生ごみを燃やすには、多くの燃料が必要となります。その結果、二酸化炭素(CO₂)も多く排出されてしまいます。地球温暖化を抑制するためにも生ごみの減量化に取り組むことが大切なのです。

埼玉西部環境保全組合負担金とごみ搬入量の推移 (毛呂山町分)



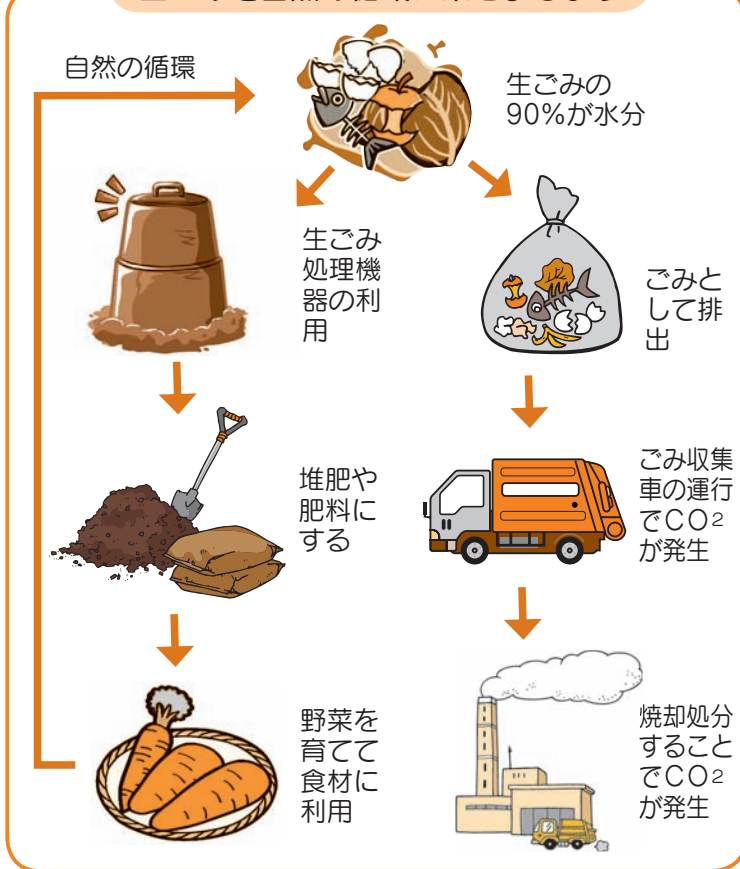
※平成20年度以降の負担金減少は、施設建設費の返済が一部終了したためです。

ごみの種類別搬入割合



出典：平成22年度埼玉西部環境保全組合資料 (毛呂山町分)

生ごみを自然の循環に乗せましょう



生ごみの90パーセントが水分

生ごみは実にその90パーセントが水分であり、残りの大部分は有機物で、無機物は1パーセント以下です。生ごみは含水率が高いため、乾燥させて水分を飛ばすだけで減量化し、元の重さの5分の1以下になります。水分を減らすには、三角コーナーで水切りする、新聞紙の上に薄く広げて乾燥させる、魚の干物用ネットなどに入れて物干しにぶら下げるなどの方法がありますが、ごみの形は

生ごみを堆肥化しよう

残るため、最終的には、ごみ処理施設で焼却処分されることになりま
す。
生ごみは、私たちの家庭内で発生し、少量で分解しやすいものです。微生物を活用すれば堆肥として有効利用できたり、また消滅させることもできますので、できるだけ自然の循環に乗せるよう心がけましょう。
生ごみの堆肥化には、微生物分解方式（好気発酵、嫌気発酵）と乾燥

堆肥化できるもの

- 調理クズや食べ残し
- 魚の骨
- 卵の殻、茶殻、コーヒーかす



堆肥化できないもの

- 木串、竹串、ペーパーフィルター、プラスチック類
- 豚骨や貝殻、果物の大きな種など硬いもの
- 腐敗した生ごみやペットのフン



毛呂山町家庭用生ごみ処理機器設置補助金制度

	基準	補助金額
コンポスト式	容積が100リットル以上のもの。 耐水性および耐久性のあるもの。 臭気などの発散防止や雨水が流入しないように安全なふたがあるもの。	1基につき3,000円を限度とし、1世帯2基以内
電気式	電気を用いて微生物による分解消滅方式によるもの。 生ごみの堆肥化を目的に製造されたもの。	購入費の2分の1以内で、上限が20,000円とし、1世帯1機まで

※補助金の額に100円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てます。

家庭用生ごみ処理機器
補助金を交付しています

町では、家庭から排出される生ごみの減量化推進を図るため、家庭用生ごみ処理機器設置者に対し補助金を交付していますので、ぜひご利用ください。補助金申請は、左記の窓口にて処理機器のパンフレット、領収書、預金通帳、印鑑を持参して行ってください。
212 役場生活環境課環境係 ☎内線

生ごみの減量化を

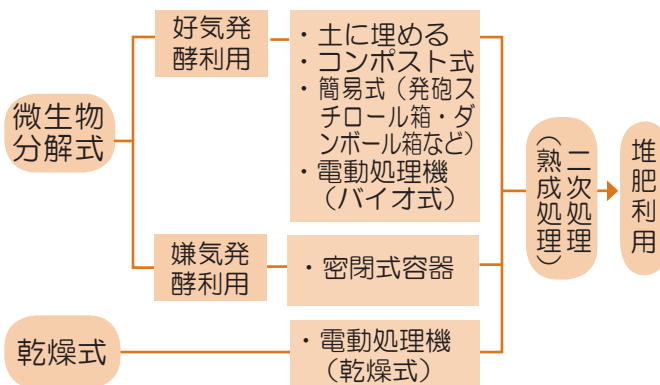
始めてみませんか

生ごみは、分解しやすく栄養も豊富のため、良質の堆肥になります。できた堆肥は、家庭菜園やガーデニングに利用することができます。家庭で生ごみを堆肥化する機器には様々なものがありますので、皆さんもこれらを使って生ごみの減量化に取り組んでみませんか。

様々な処理方式があります

生ごみの堆肥化には様々な方法がありますが、大別すると微生物を利用する方法と機械で乾燥させる方法に分けられます（左図参照）。

様々な堆肥化方法と堆肥利用までの流れ



コンポスト式生ごみ処理器



コンポスト式生ごみ処理器の中身

夏場は、虫が発生しますが、乾いた土や草を入れて乾燥させるのが一番良い方法です。しかし、この方式だとすぐに容器が一杯になりますので、2個以上容器を用意して交互に使用することをお奨めします。また、少量の石灰や石灰窒素、ゼオライト（軽石）の粉末を播くと虫の発生が収まりますので利用してみてください。なお、コンポスト式の生ごみ処理器は、ホームセンター、J.A、金物店などで取り扱っています。料金は、4000円〜6000円程度です。

排水が良く、日当たりの良い場所に設置します。コンポスト式は、好気発酵を利用した処理方式なので、酸素の供給が欠かせません。このため良くかき混ぜて酸素を入れてあげることが大切です。良く晴れた日には、網や木綿の布などで防虫対策をしたらうで蓋をはずすと発

1 コンポスト式

町補助金の対象

生ごみは全て自家処理しています ～コンポスト式機器を3基設置～

小高 イツ子 さん (大谷木)



私の家では、結婚以来33年間生ごみは出していません。毎日、蓋付バケツ1杯分の生ごみが出ますが、貝殻などを除いて、どんなものでも投入しています。

コンポスト式機器は、満杯にはせず、半分くらい溜まると別のコンポスト式機器に変えます。夏場は、虫が発生するので、町で配布している資材（おがくず4：腐葉土1：バーク堆肥1を混合）を播いています。そうすると、虫の発生が減りますし、生ごみも早く減ります。このほか、乾いた土や草木灰、米糠なども投入しています。処理物は、半年位熟成させて、畑の肥料として利用しています。

コンポスト式機器は、水分を吸ってくれるので、生ごみの減量化には向いています。畑やちょっとした庭がある人なら、ぜひ、コンポスト式機器を使用して欲しいですね。

電気式生ごみ処理機（乾燥式）
を設置しています

一ノ瀬町子さん（川角）



生ごみの処理に困っていたところ、電気店の紹介で電気式生ごみ処理機を購入しました。処理機は屋外に設置し、1週間分の生ごみをまとめて処理します。処理もボタンを押すだけ

なので、いつの間にか終わっているという感じです。生ごみは、しっかり乾燥されていて、手で触っても不快な感じはありません。ごみの量も5分の1ぐらいに減少します。処理後の生ごみは、親戚から借りている畑に播いて、夏野菜を育てる肥料に使っています。

生ごみ処理機を購入してからは、生ごみを出さずに済んでいます。集積所にはパッケージや紙類のごみしか出しませんので、軽くて臭いもしないのでとても楽です。生ごみ処理機は、手軽で便利なので、これからも使い続けたいと思います。

電気式生ごみ処理機には、ヒーターで加温して数時間で乾燥する乾燥方式のものと、おがくずのような菌床という微生物の住みかの中で、生ごみを分解する微生物分解方式の二種類があります。

乾燥方式では、数日ごとに処理物を取り出すことが必要ですが、生ごみを強力に乾燥させてしまうため、衛生的です。また、微生物の力はまったく必要としません。

微生物分解方式では、数か月から1年間、処理物を取り出す必要があ

2 電気式

町補助金の対象



電気式生ごみ処理機（乾燥方式）

電気式生ごみ処理機（微生物分解方式）

りませんが、好気性菌の働きを利用するため、菌の培養資材を入れる必要があります。

生ごみ処理機は、町内の電気店または家電量販店で5万円程度のもので多く販売されています。悪臭なども発生しないため、利用者が増えています。

3 簡易式

資材を無料配布

町では、発砲スチロール箱を利用した簡易式の生ごみ処理器を推奨しています。作り方は左図のとおりですが、おがくず4・腐葉土1・バーク堆肥1の割合で混ぜた資材のなかに、米糠をまぶした生ごみを混合するだけです。発酵が進むと温度が上昇します。しばらくすると、生ごみが減っていきますので、生ごみを追加します。この繰り返しで、しばらく使えます。

この生ごみ処理器は、おがくずの臭いがするだけなので、屋内に置く

こともできます。発砲スチロール箱と資材については、生活環境課で無料配布していますので、ぜひご利用ください。



産業まつりの会場で、簡易式生ごみ処理器の広報活動を実施

手づくり生ごみ処理器の作り方

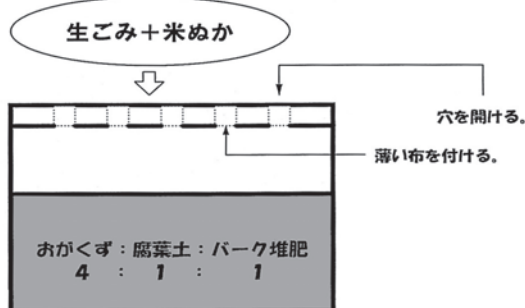
◇◇庭がなくてもベランダ等で簡単に出来ます◇◇

●用意するもの

- ・発砲スチロール箱（なるべく深いもの。）
- ・おがくず、バーク堆肥、腐葉土、米ぬか
- ・薄い布

●作り方

1. おがくず4、腐葉土1、バーク堆肥1の割合で混ぜたものを発砲スチロールの中に入れて7分目程度入れる。
2. 蓋に2～3cmの通気用の穴（10～20箇所程度）を開けて、蓋の裏側に薄い布をつける。（虫除けと通気性を良くするため）



●使用方法

1. 生ごみと米ぬかをよく混ぜる。
2. 混ぜた生ごみを容器の中へ入れ、よくかき混ぜる。
3. 1日に1回はよくかき混ぜる。※発酵熱で約50℃近くになる。
4. 温度が上がらない場合は、食用油（腐油）を加える。
5. 寒い時期は分解が遅くなるので、なるべく日に当てて下さい。

参考図書

家庭でつくる生ごみ堆肥～よくある失敗防ぐポイント～（農山村漁村文化協会発行）／生ごみ堆肥リサイクル（家の光協会）／はじめよう生ごみリサイクル（札幌市環境局）